

人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業

令和8年度予算額
(前年度予算額)

1 億円
1 億円)

資料 1 - 1
科学技術・学術審議会 学術分科会
人文学・社会科学特別委員会 (第31回)
令和 8 年 7 月 17 日
文部科学省

背景・課題

- 国際共通性・機械可読性のある良質な学術データの開発・整備やネットワーク化、大量のデータを利用した研究の効率化・加速化や深化、巨視的研究の実施など、諸外国では人文学研究のデジタル化（「デジタル・ヒューマニティーズ（DH）」）を積極的に推進。こうしたDHに係る世界的動向への対応や総合知の創出にも資する観点から、国内学術機関の協働体制を構築し、分野に適したデータ規格のモデルガイドラインや人材育成プログラムの開発など、DX化のための基盤開発が必要。
- 総合的・計画的な人文学・社会科学の振興に向けて、我が国全体の人文学・社会科学の研究動向・成果を把握するためのモニタリング手法の確立が喫緊の課題。とくに、同分野では、研究成果の主な発表媒体として、個人の研究成果を体系化した「書籍」が重要な位置を占めており、論文データだけでなく、書籍データも活用した研究動向や成果の調査・分析が必要。加えて、人文学・社会科学の特性を踏まえ、社会・経済・文化等への中長期的・多面的なインパクトや、SNS等の新たな指標を活用した成果発信等に係る検討が必要。

事業の概要

(事業期間：令和6年度～令和8年度)

【事業の目的】 我が国の人文諸分野のDX化を推進するため、国内学術機関で構成する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」を立ち上げ、協働体制を構築し、良質な人文系学術資料のデータの作成・利活用促進のための基盤開発を推進する。併せて、我が国の人文学・社会科学の総合的・計画的な振興に資するため、同分野の研究活動の成果をデータ分析により可視化・発信するための研究開発を実施する。

I. データ基盤の開発に向けたデジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアムの運営

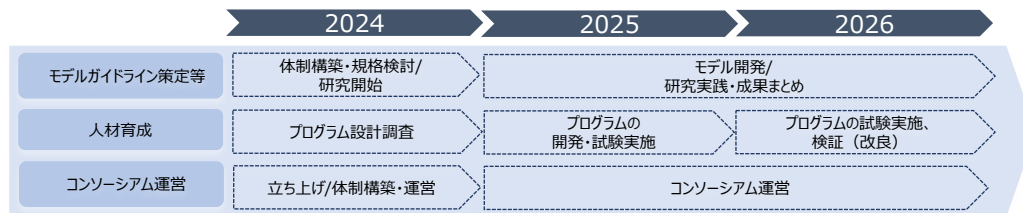
※国内諸機関で協働体制を構築し、以下の取組等を実施

- (A) データ規格のモデルガイドラインの策定、データ利活用研究のユースケースの創出
- (B) 人文系学術資料のデータ構築やデータ・AI利活用研究を可能とする人材の育成（教育プログラムの開発・実施・検証）
- (C) 「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」の設置・運営

※ 国から実施機関（中核機関）への委託（1機関×64百万円×3年）



データ規格の統一による複数画像比較



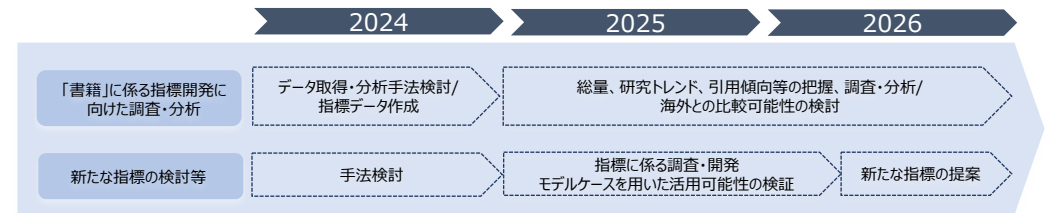
成果 ● モデルガイドラインの活用、データ駆動型研究の進展、DH人材の育成（プログラム展開）

II. 人文学・社会科学におけるデータ分析による成果の可視化に向けた研究開発

※ モニタリング指標の開発に向けた調査・分析

- (D) 「書籍」に係る指標開発に向けた調査・分析
 - 総量、研究トレンド、引用傾向・特徴の把握、国際比較のための検討、調査・分析
- (E) 社会的インパクト、書評等の人文学・社会科学における新たな指標開発の検討・提案

※ 国から実施機関への委託（1機関×32百万円×3年）



成果 ● 研究活動の成果の可視化・モニタリングの実施、国の施策への活用・展開

- 第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）：『人文学・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」との融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用がますます重要』
『人文学・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する』
- 「統合イノベーション戦略2025」（令和7年6月6日閣議決定）：『人文学・社会科学も含めた総合知の活用が重要』 『人文学・社会科学について、総合的・計画的に振興するとともに、自然科学の知と連携・協働を促進し、分野の垣根を超えた「総合知」の創出を進める。』
- 「デジタルアーカイブ戦略2026-2030」（令和7年5月デジタルアーカイブ戦略懇談会・デジタルアーカイブ推進に関する検討会決定）：『デジタル文化資産・学術資料等の横断的な検索及び利活用を促進します。』
『デジタルアーカイブに関する専門的知見を有する人材の確保、養成及び資質能力の向上に向けた必要な取組を推進します。』

(担当：研究振興局振興企画課)